



# エコポスト

小田原市の環境を考えるための情報誌

vol. 79

## 北條五代歴史と文化の祝典「美化キャンペーン活動」開催

小田原市最大の観光イベント「小田原北條五代祭り」にあわせて行ってきた清掃活動「美化キャンペーン活動」は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2年間中止となっておりました。今年は、「小田原北條五代祭り」改め「北條五代歴史と文化の祝典」が開催され、本協会でも5月3日(火)に小学生～高校生の方々にも参加していただき「美化キャンペーン活動」を3年ぶりに実施することができました。



今回は「北條五代歴史と文化の祝典」（旧北條五代祭り）に合わせて、美化清掃活動を実施しました。三の丸小学校、城山中学校、二宮高校の方にも参加して頂き、総勢105人の方々とパレードコース・逆コース・城内と3組に分かれて清掃活動を行いました。また、パレードの後も数名の有志による清掃を行いました。

多くの方から、「ご苦労さま」とお声をかけていただきました。ありがとうございました。

(西島摩瑛頭)

## 「おだわら応援花火プロジェクト」翌日の美化清掃を実施

例年8月に開催されている「小田原酒匂花火大会」は、今年は「おだわら応援花火プロジェクト」とし市内4か所にて花火の打ち上げが行われました。当協会では、例年花火大会の翌日に美化清掃を行っており、今年は8月7日(日)に花火の打ち上げ場所4か所のうち、酒匂川スポーツ広場周辺1か所の清掃活動を行いました。

酒匂川の小田原大橋は、花火大会を縮小した為、橋の上から見る人は少なかった為、綺麗でした。酒匂川の土手もゴミは少なく飲食のためのゴミがあるのみでした。清掃の参加者は、9名でした。来年もよろしく願いいたします。(植田聡)



ささやかな活動ではあるが河川敷の散乱ごみを拾う作業に参加した。

前夜の花火大会直後に観光協会が清掃はしているが夜分なので多少のごみが散乱していた。この日は、ゴミ袋45ℓ3袋であったが、その後の風雨で海に流されマイクロプラスチックになる可能性は大であった。そのプラスチックを食べてしまう魚を私共が知らずに食べていく光景は何としても避けたい。(高松民吉)

# 「あじ・地魚まつり」クリーン作戦



小田原港ならびに水産業を市民及び観光客に広く紹介し、「港」を海と人とのふれあいの場として、地域漁業の活性化を図ることを目的として「小田原港まつり」が毎年開催されていますが、今年は「あじ祭り」とあわせて10月30日（日）に行われました。

参加者9人で午後1時より2時30分まで清掃しました。一般の方々が昼食を終わってから、清掃を開始しましたので、迷惑をかけず活動することができました。現場は非常にきれいになり、気持ち良い場所になりました。今後ともよろしくお願ひします。（富田蓉子）

## 酒匂川右岸河口と 周辺海岸の清掃活動



11月6日（日）朝9時前から10時まで、酒匂川右岸河口と周辺海岸の清掃を実施しました。ご参加くださったメンバーは、小田原東高校の先生と生徒の皆さん、山王小学校の先生、児童とのお父さん、周辺地域の自治会の皆さん、環境ボランティア協会の皆さん、合計約40人ほどでした。

今年は大きな台風もなく平穏だったためか、例年に比べ目立ったゴミは少なかったのですが、それでも手分けして清掃した結果、燃せるゴミ大袋7袋、燃せないゴミ大袋5袋、大きなゴミとしましてベニヤ板、椅子大小1つずつ、ヘルメットなど沢山のゴミを拾い、河口は大変清々しくなりました。立冬も過ぎ、爽やかな良いお天気に恵まれ、みんな元気に無事に清掃ができてよかったです。皆様、お疲れ様でした。

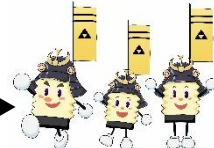
今後もこの美しい浜辺を保つために、「ゴミは捨てない、ゴミは持ち帰る」ことをお願ひします。（濱野昌平）

## 第22回城下町おだわらツデーマーチ会場清掃

新型コロナウイルス感染症の影響で、こちらも3年ぶりとなるおだわらツデーマーチが定員2500人で11月20日（日）に開催されました。これに先立ち11月13日（日）に、当協会では地元企業の方々18名（鈴廣かまぼこ（株）、さがみ信用金庫等）と共同で全5コースのうち、2コースの事前清掃を行い、参加者の方にきれいな環境でイベントを楽しんでいただきました。

3年ぶりに開催された清掃活動は、どのコースも、ごみの目立つところは少ないように思う。最近、小田原駅を中心に、色々な団体が清掃活動を行っている。ツデーマーチの時期に限らず、日頃の色々な団体活動で、小田原の町の各地がきれいになっている。小田原市もきれいな町になり、訪れた人々が良い印象を持ってくれるのではないかと思う。（國島明宏）

えっさほい  
ファミリー



# 会員向け研修会 「小田原市の地球温暖化対策について」を実施

国は、2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロとする脱炭素社会、カーボンニュートラルの実現を目指すこととしました。小田原市は、国に先駆けて2019年11月に2050年ゼロカーボンシティを表明し、今年10月に気候変動対策推進計画の策定を行いました。

当協会でも、こうした時流を受け本市の地球温暖化対策についての研修会を行い、環境に対する意識を一層醸成し、知識を深める機会を設けました。

開催日：令和4年10月24日(月)14時～15時30分

場所：小田原市役所6階601会議室

講師：小田原市環境部ゼロカーボン推進課 内田副課長

## 研修をおえて…

CO<sub>2</sub>の排出抑制に向け、自分ごととして考えつつ受講した。私の場合は紙ごみを極力「燃せるごみ」ゼロにするように努力すると共に、生ごみは総て堆肥化を20余年している。

市民のアクション事例を広報などで強力に募集し、誰もが温暖化防止に貢献する生活者となるよう促したいものであると思った。

(高松民吉)



に取り組もう！



ゼロカーボン推進キャラクター  
ボンボンちゃん

## 会員向け研修会 より抜粋

ゼロカーボンアクション30とは、2050年カーボンニュートラル社会の実現に向けて、具体的に何をすればいいのかを示すものです。食品ロスを減らす取組、3Rの取組などがある中で、今回はエネルギー分野でどのようなアクションがあるかを紹介します。

**エネルギーを  
節約・転換しよう！**



ごみに関する  
アクションも  
たくさんあるボン

**太陽光パネル付き・  
省エネ住宅に住もう！**

その他のアクションについては、「ゼロカーボンアクション30」で検索



例えば、消費電力の高い「エアコン」。使い方を工夫することでゼロカーボンアクションになります。

- ・設定温度を1℃低くする  
⇒年間19kgのCO<sub>2</sub>削減
- ・フィルターを月1,2回掃除する  
⇒年間18kgのCO<sub>2</sub>削減
- ・寿命(10年)を超えたエアコンを買い替える  
⇒年間約41kgのCO<sub>2</sub>削減(10~15畳タイプ)
- ・扇風機を活用する  
⇒部屋の空気が循環して暖房効果が高まります。

小田原市では、太陽光発電システムやネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)の導入などに対して補助を設けています。

- ・地球温暖化対策推進事業費補助金  
(燃料電池、ZEH、太陽光発電設備)
  - ・地域脱炭素移行・再エネ推進重点対策加速化事業補助金  
(0円ソーラー、太陽光発電設備、ソーラーシェアリングなど)
- <注意>

- ・設備によって申請条件が異なります。
- ・予算に達していないメニューのみ記載

(2022年11月末現在)

【担当】小田原市ゼロカーボン推進課 ゼロカーボン推進係 (0465-33-1426)

# 特集 市内の落書きを消して16年 西島会長に聞く！

平成18年から小田原市内の落書き消しを続け、16年間の活動の中で、およそ17,700個もの落書きを消してきた西島会長に、その思いを伺いました。

— いったいどんな思いから、落書き消しを続けているのか教えてください。

落書きがあると、町はもちろん汚れて見えたり、だらしく見えたりします。また、その存在は地域の人や、せっかく小田原市に訪れた人たちに不快感を与えてしまうかもしれません。これらを防ぎたく、落書き消しを続けていますが、問題はこれだけではありません。

『窓割れ理論（ブロークンウィンドウ理論）』をご存じですか。



## 『窓割れ理論（ブロークンウィンドウ理論）』とは...

建物や車の窓が割れているのを、そのまま放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓も全て壊されてしまう、というアメリカの犯罪学者が唱えた理論。軽犯罪を放置していると、やがて大きな犯罪につながり治安の悪化を招くということの意味している。

町の落書きも同じで、その存在をそのままにしていれば、その近辺でポイ捨てなどが増えたりやがてそれは地域の治安にも悪影響を及ぼしていくと思います。

— 地域の治安のことまで考えて、活動を続けてこられたということですね。今まで、地元有志や学生の方々と一緒に、大きなものから小さな落書きまで消してきたかと思いますが、最近の傾向について教えてください。

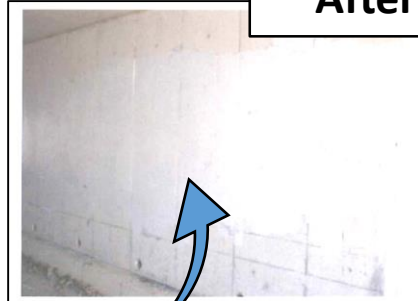
今までの活動で、市内の落書きは徐々に減りつつありますが、残念ながら落書きがまだまだあるのが現状です。毎月、不定期で落書き消しの活動を行っており、ボランティアを随時募集しています。ぜひ皆さんで、落書きの一つもないきれいな小田原を目指し活動してみませんか。

ご興味のある方はこちらまで  
【連絡先】環境ボランティア協会 西島(23-3740)

Before



After



【発行日】 2022年12月8日

【発行責任者】 小田原市環境ボランティア協会 会長 西島摩瑛頭

【事務局】 小田原市環境部環境政策課